

# 「AI for Scienceを支える共用計算資源に関する 整備計画等のアンケート調査」について

# AI for Scienceを支える共用計算資源に関する整備計画等のアンケート調査

## 趣旨・目的

- 「AI for Scienceの推進に向けた基本的な戦略方針」(令和8年3月31日文部科学省)において、2030年度までを「集中改革期間」と位置付け、急速に需要が高まるAI共用計算資源の戦略的な増強や利便性の向上等取組を段階的かつ迅速に講じていくとともに、このためのアクション項目として「AI for Scienceのための共用計算資源を2030年度までに10倍以上にする」ことが示された。
- 本方針を受けて、文部科学省においては、全国の大学・高専・国立研究開発法人等による共用計算資源の戦略的増強に向けた取組を検討しており、各機関の共用計算資源の整備計画等についてアンケートを実施した。

## 調査期間

2026年5月18日(月) ~ 2026年6月22日(月)

## 調査対象

国公立大学、大学共同利用機関、高等専門学校、国立研究開発法人 等

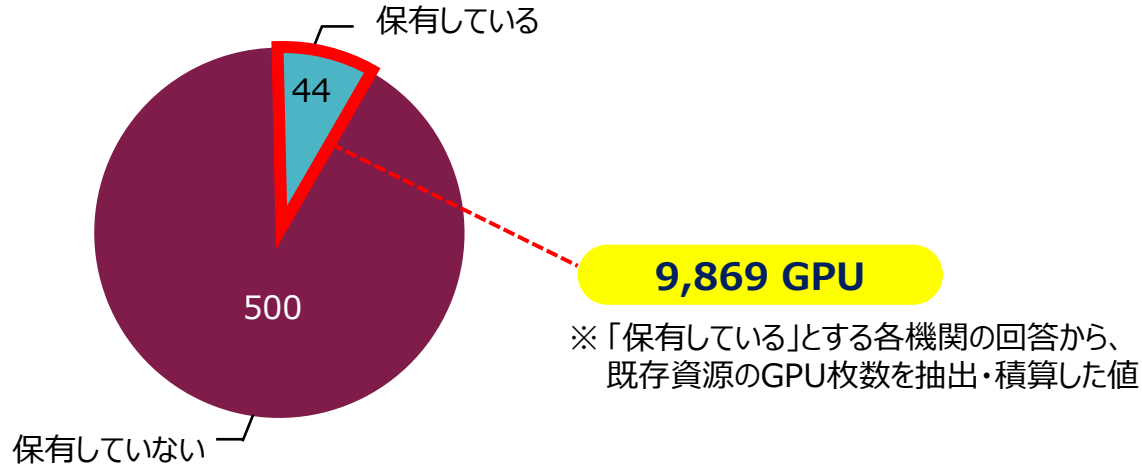
送付機関数	回答機関数	回答率
933	536※	約57%

※同機関・同部署は重複回答としているが、同機関の異なる部署からの回答は以降の分析では別々のカウントとしている。 1

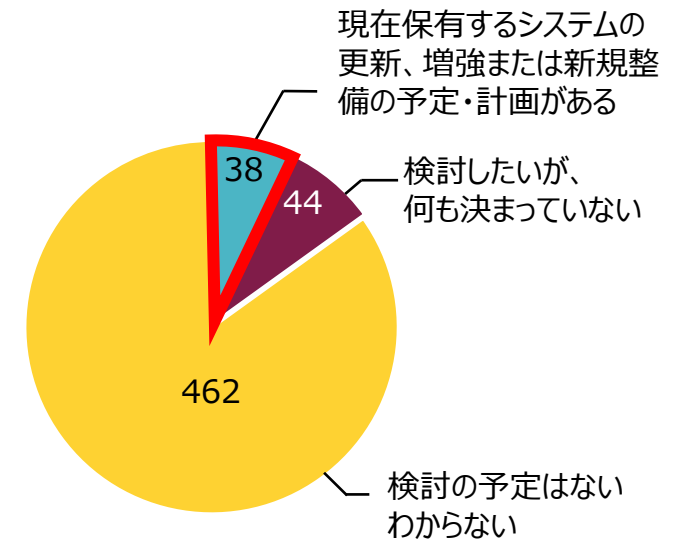
# AI for Scienceを支える共用計算資源に関する整備計画等のアンケート調査（暫定版）

## 既存設備の有無

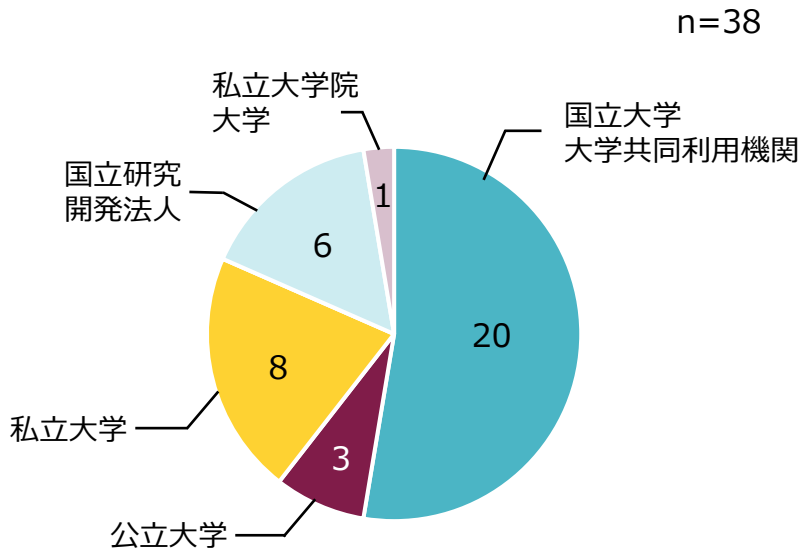
Q. 所属機関において、計算資源（GPU等で構成される大規模かつ高速な計算機（いわゆる「スーパーコンピュータ」）を保有していますか。



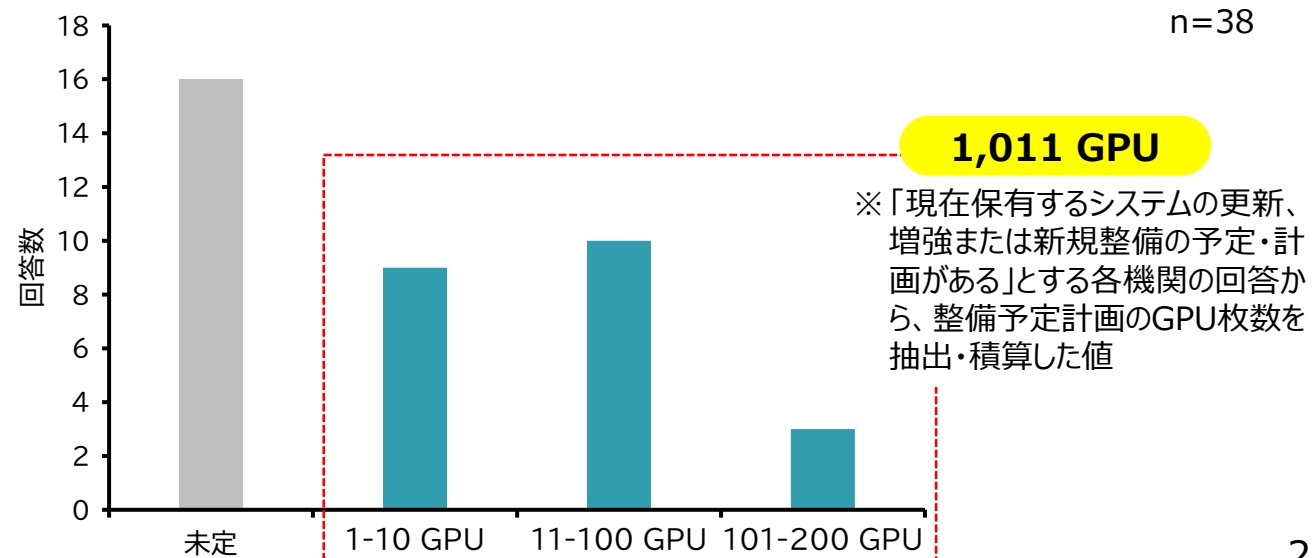
## 整備計画の有無



## 整備計画があると回答した機関の種別

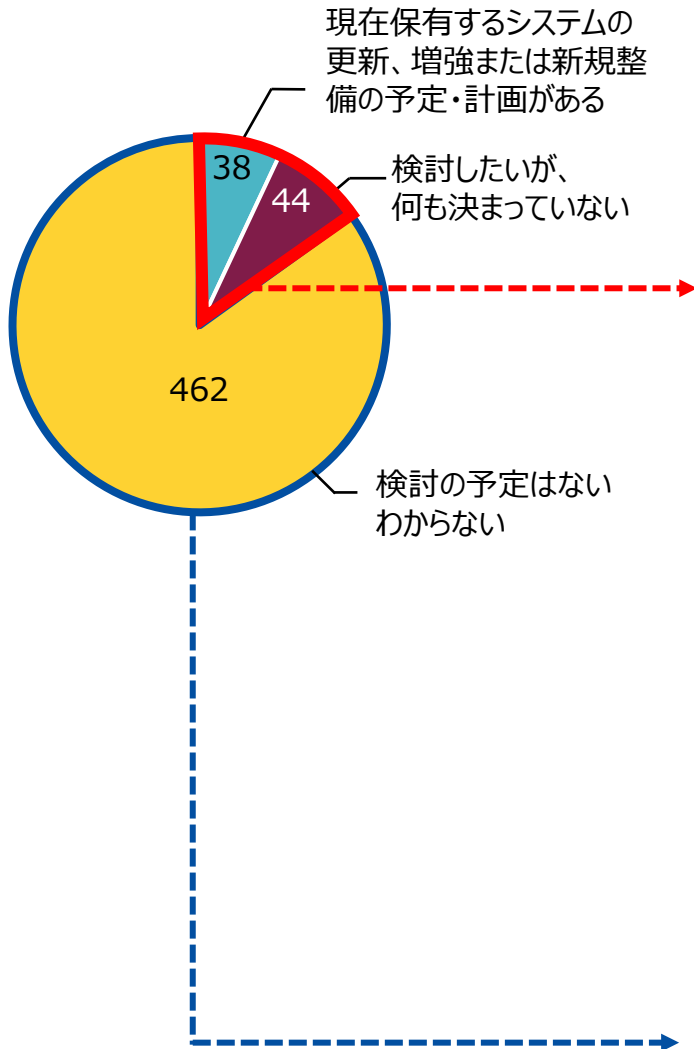


## 整備予定GPU数の規模別比較



# AI for Scienceを支える共用計算資源に関する整備計画等のアンケート調査（暫定版）

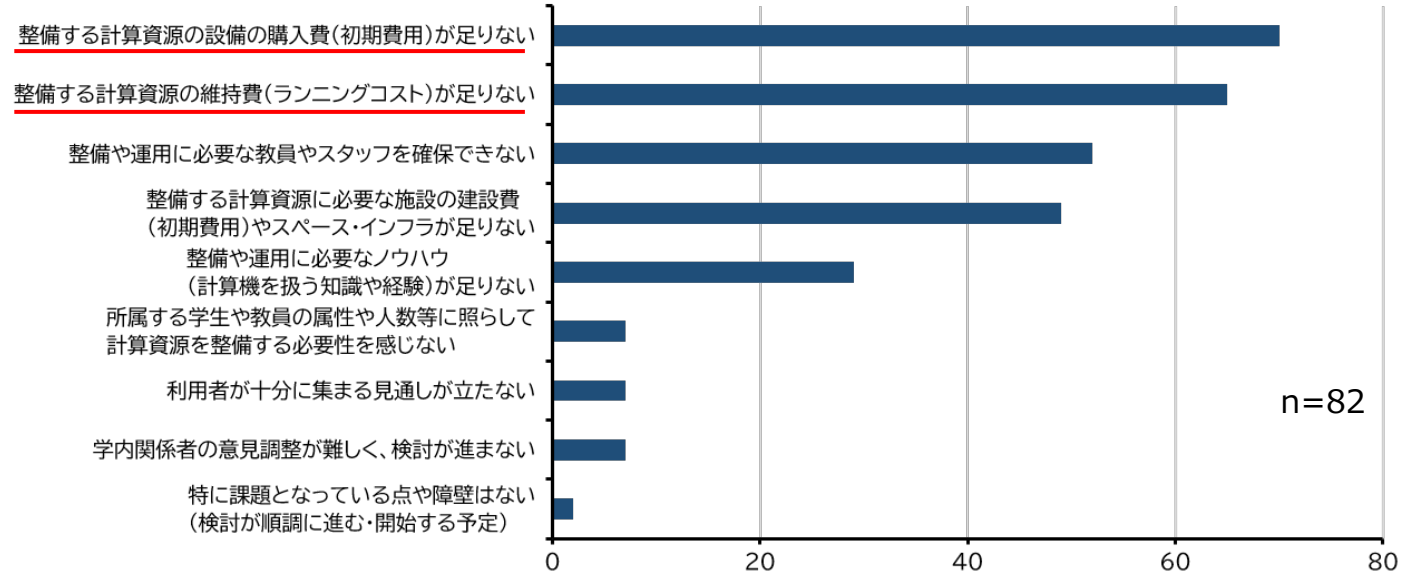
## 整備計画の有無



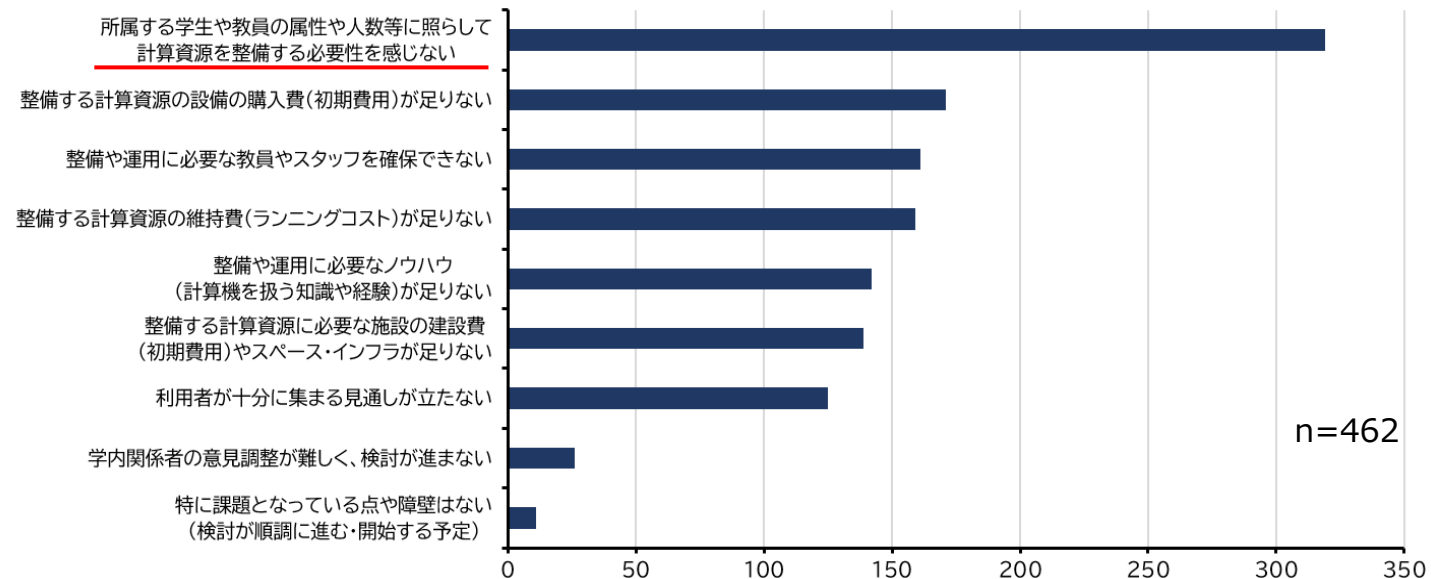
## 計算資源の整備(更新・増強・新規)に向けた課題等

Q. 貴機関において、計算資源の整備(更新・増強・新規)に向けて課題となっていること、又は計算資源の整備を行わない理由について、当てはまるものを全て選択ください。(複数回答可)

「現在保有するシステムの更新、増強または新規整備の予定・計画がある」「検討したいが、何も決まっていない」の回答者



「検討の予定はない、わからない」の回答者



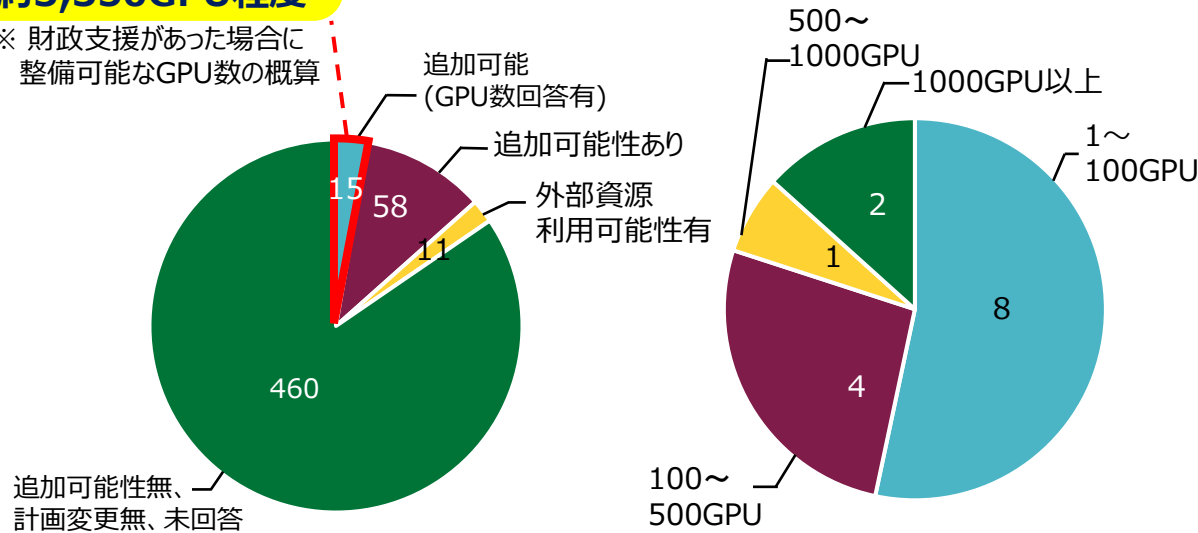
# AI for Scienceを支える共用計算資源に関する整備計画等のアンケート調査（暫定版）

## 財政支援によるGPU追加配備の可能性

※整備計画の有無／既存設備の有無によらず集計

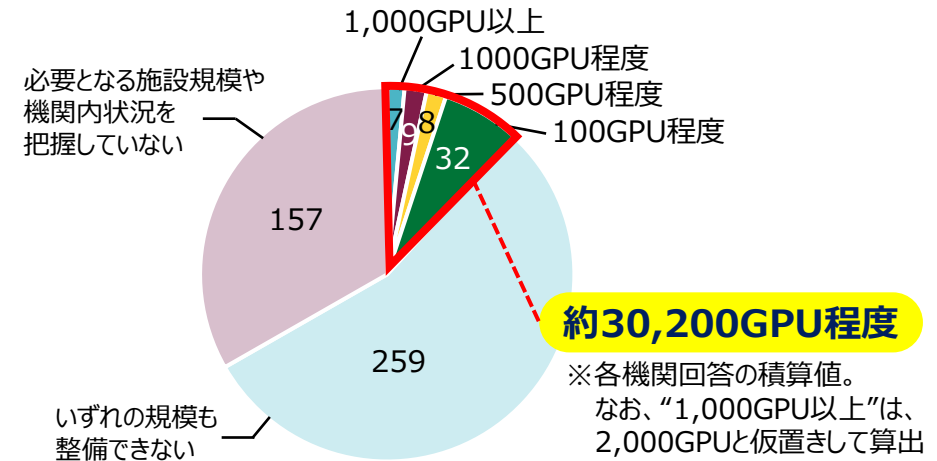
約3,350GPU程度

※ 財政支援があった場合に整備可能なGPU数の概算



## キャパシティの有無

※ 土地・建屋・電源等の余裕があり、今後整備可能なGPU数の概算



約30,200GPU程度

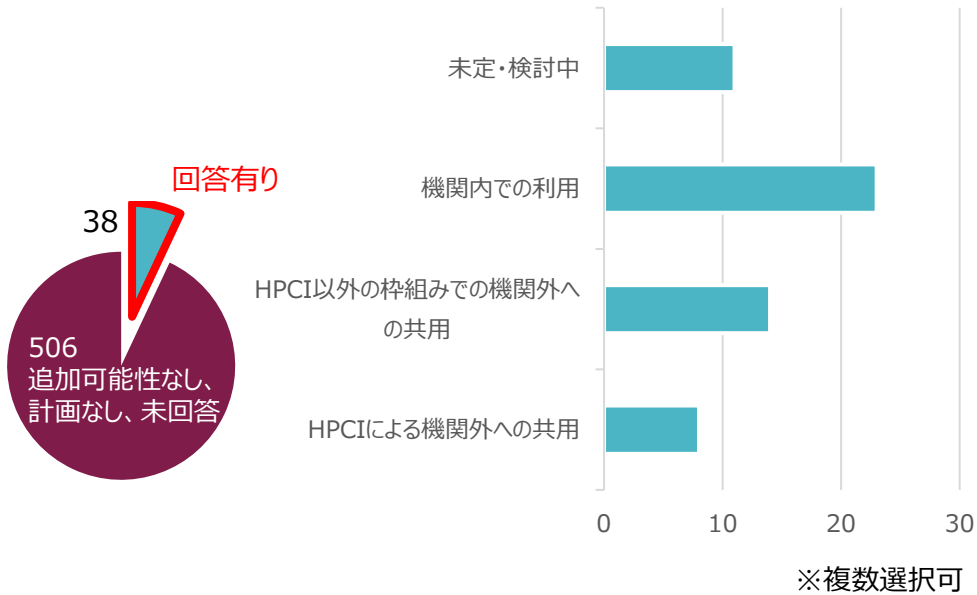
※各機関回答の積算値。  
なお、“1,000GPU以上”は、2,000GPUと仮置きして算出

## 財政支援によるGPU追加配備の可能性(自由記述)よりコメントを抜粋

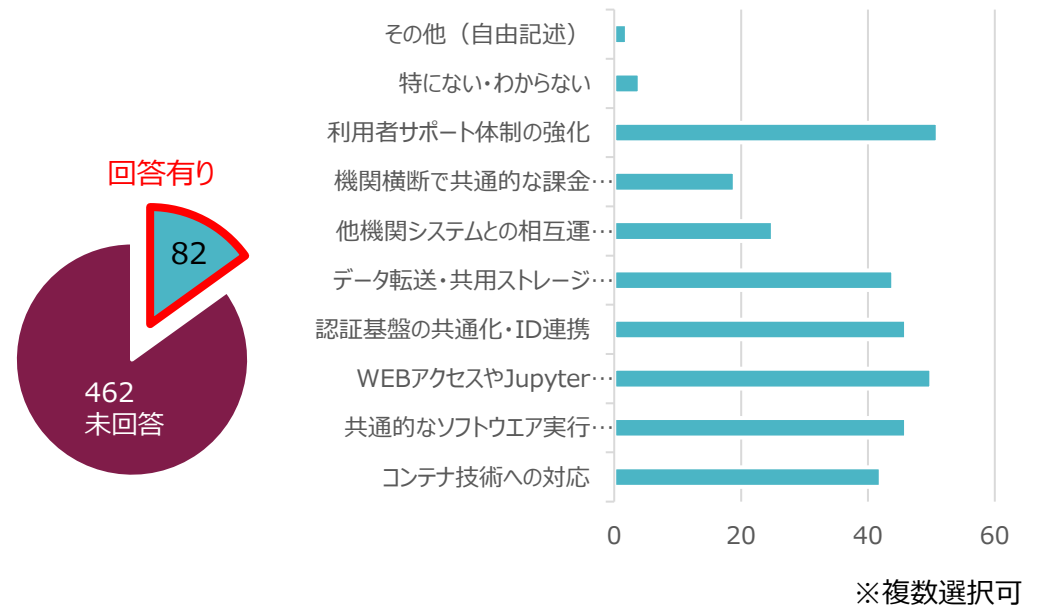
- ✓ 大学が有する計算基盤センターに対して、その有用性への文科省からの後押し
  - センターの運営予算(システム整備費含む)に対する縮小圧力が高まっており、なぜ個別大学がその貴重な運営費を使って全国の研究者に対して計算機サービスを提供しなければならないのか？という考えにつながりつつある。文部科学省、国家として、我が国の教育・研究、とりわけAI for Science時代においては、全国共同利用機能を呈するセンターの意義とともに、計算基盤・データ基盤の整備の整備・運用の必要性・重要性を評価するメッセージを大学に伝えていただきたい。
- ✓ 機関自身でセンター運用する際の支援
  - 計算資源を1つの研究室だけでなく、組織全体や外部と共用するためのシステムやサポート人員の雇用に支援が欲しいです。
- ✓ HPCI等共同利用型設備への期待
  - 財政的支援、導入・運用に関する技術的支援、クラウド型又は共同利用型の利用しやすい仕組みが整備されれば、学内での検討を進めやすくなる。
  - 学内で計算資源を継続的に整備・運用・維持していくことは一時的な財政的支援や改善では困難であるため、基本的には外部リソースを活用する方向と考えております。
  - オンプレミスで導入しても数年(2-3年)で陳腐化してしまう可能性があるため、コストに見合わないと感じている。また、電源設備や空調設備等のコストも非常に大きく、現状では収容可能な場所がない。クラウドリソースの活用等も検討したい。

# AI for Scienceを支える共用計算資源に関する整備計画等のアンケート調査（暫定版）

## 共用資源への拠出について



## 利用者の利便性向上施策



## 計算資源調達の大型化・効率化の可能性検討

